

教員名	吉村 佳子 (YOSHIMURA Yoshiko)
所 属	生活科学部人間生活学科生活文化学講座
学 位	家政学修士
職 名	助教授
URL / E-mail	<a href="http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshokbigak/">http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshokbigak/</a>

#### ◆研究キーワード

服飾 / 日本 / 美意識 / 色 / 文様

#### ◆主要業績

総数 ( 1 ) 件

- ・「フリーア美術館蔵『地藏菩薩靈驗記絵』についての一考察 ―蜘蛛の巣文様の服飾を中心に―」  
(『服飾美学』第43号、服飾美学会、2006年9月、p1-16)
- ・「蜘蛛の巣文様の展開 ―中世における―」  
(『服飾美学』第41号、服飾美学会、2005年9月、p37-54)
- ・「五節の舞姫像 ―遍照の和歌の解釈を中心に―」  
(『服飾美学』第29号、服飾美学会、1999年9月、p17-32)

#### ◆研究内容

日本の服飾史にあらわれるさまざまな事象を通し、各時代の人びとが服飾に託してきた心情や美意識を考察している。

#### ◆教育内容

日本服飾史、服飾美学。日本服飾の変遷についての解説と、日本服飾史のなかの具体的事象に関する服飾の美意識の考察。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

これまでの研究内容を深化させるとともに、扱う時代を日本の古代・中世から近世・近代へと広げ、幅広い服飾研究を行いたいと考えている。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

『源氏物語』の末摘花の巻には、「着給へる物どもをさへ、いひたつるも、物いひさがなきやうなれど、むかし物語にも、人の御装束をこそは、まづいひためれ」とあり、物語ではまず服飾によって人物が示されていたことが分かります。服飾描写は読者の人物理解に大きな役割を果たしているのです。

服飾は着る人の年齢や職業や嗜好などをあらわします。同時にまた時代や社会をもあらわします。

私たち日本人は、これまでどのような心情や美意識を服飾に託してきたのだろうか、この問題について一緒に考えてみませんか。